

駒場寮存続のためのビックニュース 駒場寮問題に関する主文、 批准される。

賛成 57% 反対 32%
白票 11%

教養学部当局の一方的な「廃寮」計画に、NOの意志が示された！！

駒場寮の「廃寮」は、1991年10月に、教養学部教授会の場で決定されました。しかし、この「廃寮」決定には非常に重要な問題点があったのです。駒場寮「廃寮」決定に際して学部当局は、事前に私たち学生・寮生と一切相談を行わずに、それどころか計画の存在すら隠していたのです。学部当局は、「400回以上に及ぶ話し合いを重ねた」(学生のみなさんへ99(2))と主張しています。しかし、実際には「廃寮」を決定した後になって初めて、結論としての「廃寮」を、学生に押しつけるための話し合いが行われたにすぎないのです。この一方的な「廃寮」決定に対して、教養学部生はこれまで、2年連続の学生ストライキなどによって「廃寮」反対の意思表示をしました。にもかかわらず、学部当局は、電気ガスの停止や、ガードマンの導入による取り壊し工事強行など、強行的に「廃寮」を進めてきました。この当局のやり方は非常に問題があり、暴力的手段によって、物事が解決されるようなことはあってはならないことです。今回の学生投票では、このことが、再確認されるとともに、一方的に、強行的におし進めてきた駒場寮の「廃寮」に多くの学生が反対の意思を示したのです。

今からでも遅くない、駒場寮問題の学内の話し合いによる解決を！！

駒場寮問題では、「廃寮」計画をいったん取りやめて、話し合いによる合意づくりこそが、民主的な解決の方法です。これは、駒場寮問題だけにとどまる問題ではなく、学生会館などの学生の自主活動の場や、オリエンテーションなどの学生自治活動の今後にも大きく関わってくる重要な問題です。学生は、大学においては決して「お客さん」などではなく、大学運営を教職員とともに担う主役です。今回多くの学生がこの学生投票で、賛成の意思表示をしたことで、学生無視の学部当局のやり方をストップさせ、学生の意志がより尊重される大学運営の枠組みを作る大きな力となるのです。実際に多くの学生が必要としている駒場寮を一方的につぶすことなどできるはずがないのです。「廃寮」の押しつけではない話し合いによって、今後のキャンパスづくりを行っていくのです。「廃寮」はもう決まったことで、どうしようもないんだ。というのは、何のいいわけにもなりません。実際に京大の吉田寮では、「廃寮」は撤回されました。やってやれないことはないのです。今からでも遅くありません。駒場寮問題を学内での話し合いによって解決していくよう、強く当局に求めていきましょう。

学生の意志、ここに示されたり！！駒場寮委員会

12月3日~17日まで 学生投票結果報告

東大教養学部当局は学生・寮生との合意なく、一方的に駒場寮の「廃寮」を決定し、強行的におし進めてきました。学部当局に対して、駒場寮の「廃寮」計画をいったん取りやめ、学生との合意に基づきキャンパスづくりを行おう求めよう。

賛成 2343

反対 341

白票 431